

大学ストライキで安倍たおせ！

7.14法大→7.15国会へ！



法大生・武田雄飛丸(法政大学文化連盟委員長)

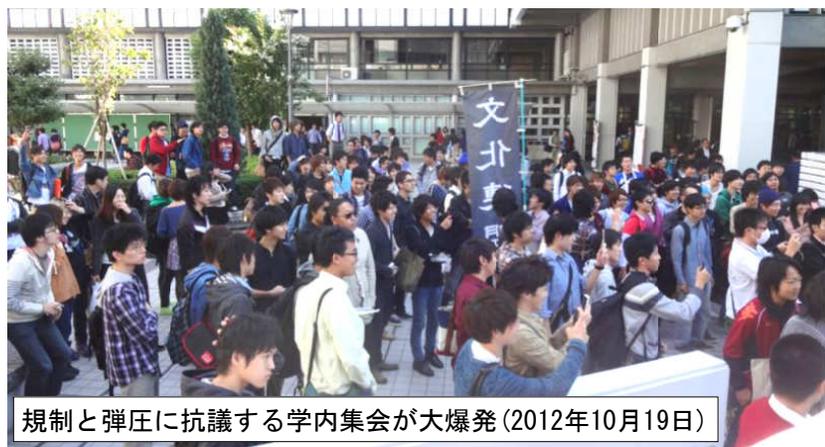
不当処分撤回アピール

学生運動潰しのための不当判決弾劾！

安倍政権が戦争法案の強行採決を狙う中、東京地裁は6月29日に、私への「無期停学」処分の撤回を求める裁判で、「処分は適当」とする反動判決を下しました。学生運動を叩き潰すための政治的な判決であり、絶対に許すことはできません。「7・14法大デモ」と「7・15国会包囲行動」の爆発で反撃に立とう！

原発推進する御用学者と大学を許さない

私に対する「無期停学」処分の理由の一つ目は、法政大学が招いた原発御用学者の授業を「妨害した」とするものです。法政大学は「3・11」以降、反原発運動を含む学生の政治活動の一切を禁圧する一方で、「放射能＝安全」キャンペーンを垂れ流す御用学者・大久保利晃(放射線影響研究所理事長)を招いて授業を行いました(2012年10月6日)。私は、福島原発事故による健康被害を矮小化する授業が行われることが許せず、聴講して批判しよう



規制と弾圧に抗議する学内集会が大爆発(2012年10月19日)

としましたが、教職員が私の入室を阻止してきました。暴力的な排除に抗議の声をあげたことが「授業妨害」とされたのです。

私への処分にこそ、「教育」や「学問」の名で原発を推進し、福島をはじめ全国の原発反対の怒りに敵対する大学の腐敗が凝縮しています。

大学を学生の手に取り戻そう！

処分の理由の二つ目は、キャンパスで学祭規制に反対する1000人集会が爆発したことを「業務妨害」とするものです。法大当局が妨害されたとする「業務」とは、集会を禁圧するためにキャンパスを封鎖し、教職員を動員して戒厳体制を敷いたことであり、大学当局の制動を打ち破って集会をしたことが「業務妨害」だということです。私への処分は、大学や御用学者を批判したり、学内でデモや集会等の活動を行うこと自体を「罪」としています。事実上の「憲法停止」状態が法政大学で行われているのです。

にもかかわらず東京地裁は、私の行動が「静謐(せいひつ)な学習環境を乱した」として処分を正当化しました。一体、「静謐な学習環境」とは何でしょうか？ 大学や学問があたかも社会と隔絶した中に存在するかの様に装いながら、その権威でもって学問の公正中立を騙り、御用学者の授業を行う事でしょうか？

7・14法政大包囲デモ

7月14日(火) 12時40分～ 13時出発

@法政大学・市ヶ谷キャンパス前

文化連盟

法政大学文化連盟

【メール】 bunren08@yahoo.co.jp 【HP】 <http://08bunren.blog25.fc2.com/>

まさにこの大学こそが、学生から政治を奪い、反対言論を封殺し、「原子カムラ」としての大学を成り立たせてきたのです。

今、安倍政権の下で「原子カムラ」としての大学は、そのまま「軍事ムラ」とも呼ぶべき「大学の戦争協力」を生み出しています。背景には、安倍が「成長戦略」の一環として掲げる「大学改革」、一昨年12月に閣議決定した「大学の軍事研究の有効活用めざす国家安全保障戦略」、そして昨年「7・1閣議決定」(＝集团的自衛権行使容認)という国家意思があります。大学で「日の丸・君が代の強制」や、経済的徴兵制の導入、文科系・教員養成系科目の廃止、東京大学などではすでに軍事研究が始まっています。

戦争へむけた大学の動員は、戦前もそうであったように学生自治と教授会自治の破壊と完全に一体です。東京大学の「軍事研究解禁」も、70年安保の高揚を背景に成立した教職員組合との協定を、濱田前総長が一方的に破棄した事で実現しました。

戦争とは、東京大学や法政大学のように、学生や教職員の政

治活動が抑圧され、学生自治会や教授会が解体、もしくは有名無実化されていく中で始まっていくのです。だからこそ私への処分は「大学の戦争協力」の具体的実践であり、こうした大学を学生がキャンパスから立ち上がり粉碎していく中に戦争を止める力があります。

学生を規制で縛りつけ、「学費・就活・奨学金」の三重苦の下で、あらゆる大学で学生が決起するのが困難な状況が作られています。しかし学生が団結して、学生自治会を復権させ、ストライキで闘えば、必ず現状を変えることができます。

7月15日には、9月末まで国会を延長した安倍政権が、戦争法案の衆院強行採決を狙っています。7・15国会包囲闘争は歴史的な闘いになろうとしています。大学ストライキで7・15国会包囲闘争に集まりましょう。何としても戦争法案を粉碎し、安倍を打倒しよう！！

学生運動の爆発で戦争とめよう 法大闘争に立ちあがるう！

①処分と弾圧に絶対に屈しない

「2006年3・14弾圧」(ピラまき・立て看板規制に抗議した学生29名の不当逮捕)から始まった法大闘争は、9年間でのべ126名の逮捕(34名の起訴)と13名の不当処分という大学当局と国家権力による学生運動弾圧をすべてはね返し、勝利してきました。

処分一弾圧と非和解で闘う中で、「仲間のために声をあげる」という学生の生き方と団結を取り戻してきました。

②改憲と戦争を大学から止める

安倍政権の下で、「大学の戦争協力」が大焦点となっています。法大闘争は、学生運動を叩き潰して「改憲一戦争」を狙う政府・国家権力との大激突でした。弾圧の激しさは、学生運動を叩き潰さない限り戦争はできないという敵の焦りです。

そして法大闘争は、一大学の問題を超えて、大学の恐るべき腐敗を暴き、「大学はこれでいいのか」「学生はいかにあるべきか」を問うてきました。「大学から戦争は始まる」。だからこそ、一握りの資本家が牛耳る今の大学(教育)を、学生・労働者民衆の手に取り戻さなければなりません。それが戦争を止める力です。

③学生自治会建設と大学ストライキやろう

「授業-就活-奨学金」で縛りつけにして学生から徹底的に政治を奪い、最後は戦争に動員して人生を破壊する。もはやこんな大学と社会に私たち学生の未来はありません。

安倍をたおして戦争を止める力は、労働者・学生が現場からの実力行動＝ストライキにあります。戦争を止める主体は、学生と青年労働者です。大学キャンパスに学生の団結体＝学生自治会を建設しよう！全世界で立ち上がる労働者と団結して闘おう！



戦争法粉碎！ 民主労総ゼネスト連帯！

7・15国会包囲大闘争

7月15日(水) 午前9時～終日 国会前座り込み

正午 霞が関一国会デモ

(11時半に日比谷公園霞門集合)

15～17時 国会前抗議集会

(衆議院第2議員会館前)

- ◆日比谷公園霞門…メトロ丸の内線「霞ヶ関」駅B2出口より徒歩1分、②メトロ千代田線「霞ヶ関」駅C1出口より徒歩3分
- ◆衆議院第2議員会館…①メトロ丸の内線/千代田線「国会議事堂前」駅1番出口より徒歩5分、②メトロ有楽町線「永田町」駅1番出口より徒歩5分